

岩手県立大学メディアセンター 図書館だより

2015-2016

12・1月号

CONTENTS

1. Recommend books おすすめ図書
2. 冬休みの長期貸出について
3. News 「世界の文化を知ろう」開催!
4. Report ライブラリー・アテンダント活動報告

■ 9:00-21:00 ■ 9:00-17:00 ■ 休館日

12月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館カレンダー

1月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1. Recommend books おすすめ図書

田中 尚 先生 (社会福祉学部) 紹介図書

NO
IMAGE

『恍惚の人』
有吉佐和子 著

わが国の高齢化率が7%を超え、高齢化社会 (aging society) に入ったのが1970年代の初頭。この作品はわが国の老人問題 (* 当時の表現) を現代的な意味で最も早く取り上げ、そして大きな反響を呼んだ作品である。今日、未曾有の高齢社会を迎えようとしているわが国が抱える医療、介護、福祉等の社会保障と、家族のあり方の問題の基本的構造が、すでにこの作品のなかで、本質について描かれている。

著者は言う、「…現代にあって老いて生きるのは自殺するよりも遥かに痛苦のことであると悟った。科学の進歩は人間の寿命を延ばしたが、それによって派生した事態は深刻である。…」この派生した事態の深刻さは、40年以上の時を経て、さらに現在、質・量ともに拡大し、複雑化するなどの様相を呈し、私たちに大きな問いを投げかけている。

内容は、東京に住む共稼ぎのサラリーマン一家の女性が、認知症の進んだ舅の介護問題に直面することになり、その女性 (嫁) の立場で見えてくる家族 (親子、夫婦) のあり方、介護の負担といった現代社会の問題が明確になってくる。家族によるケアをめぐる問題は、心理社会的なものとして大きく揺れ動いているが、それらについてリアリティを感じる表現で描かれている。

そして、本書のタイトルである「恍惚」という言葉に、読者の多くは大きな救いを得るのではないだろうか。恍惚とは、物事に心を奪われて、うっとりとするさま。ぼんやりしてはつきりしないさま。老人などの衰弱した精神状態を言うときされる。認知症を患う人だけでなく、人生の終焉を迎える人びとへのかかわりや眼差しをどのように得ることができ、「恍惚の人」と呼べるようになるためには、私たちは何を、どのようになすことが求められるのか。改めて考えるきっかけが得られる作品である。

新潮社 (1972年) 所在・・・913.6:ア<4F開架>、913.6:ア6:10<2F書庫>

大きくて、深いものを感じるということは、そのものに対して、何らかの全体の輪郭をおぼえ、比較するためのものさしをもつことが必要となることが多い。それらを持ち得ないときには、ただ、その大きさも深さも漠然としたものになる。しかし、それらがなくても、何らかの求めるもの (希求すること) があるときに、その求めに呼応して響いてくる反響を手がかりにその全体像と本質を知ることができる。重要なことは、求めるものに誠実に、そしてそれらを頼りに一生懸命に問いかけることによって、その大きさ、深さを感じ、そのなかで畏敬と謙虚をおぼえ、知ることにある。学的探究はまさにそのような営みであると言える。

現代福祉システム論は、社会福祉の初学者にとって難解であるが、福祉を学ぶことの大きさと深さをおぼえる書である。難解であることにチャレンジし、問いかけるなかで反響してくるものをわずかでも感じ、その大きさと深さを感じてほしい。

本書は、1999年に上梓されている。著者も「世紀の『終りのはじめ』に本書をだすことになった『めぐり合わせ』は、大変に気の重い現実との直面となった」と述べているが、その背景には、著者の個人的な思いにとどまらず、社会福祉の大きなパラダイムの転換、社会福祉の概念と原理論の揺れ動き、社会福祉専門職とその教育課程をめぐる諸課題など、今日の社会福祉をめぐる根本問題への直面化を意味するものである。それらの諸課題は15年を経た現在も色あせることなく、さらに複雑な難問として私たちの前にあると言ってよい。それらを予見し、社会福祉のあり方 (福祉システムの最適化) を模索しようとした書である。

社会福祉の歴史、原理論としても重要な意義をもつ本書を手にしなが、福祉を学ぶものとして、私たちは何を求め、問いかけていくか、そしてどのような応えが還ってくるか。その大きさと深さ、おもしろさを感じてみよう。

有斐閣 (2000年) 所在・・・369.1:タ<3F教員関連コーナー、4F開架、2F書庫>

『現代福祉システム論』
高澤武司 著

NO
IMAGE

2. 冬休みの長期貸出について

対象者 : 学生、院生

実施期間 : 12月11日 (金) ~ 12月25日 (金)

返却期限 : 1月13日 (水)

※院生は12月17日以降、通常通り4週間の貸出となります

貸出冊数 : 10冊

3. News 学習支援企画第4弾「世界の文化を知ろう」を開催！

近年、グローバル化がすすみ、普段の生活でも、さまざまな文化に接する機会が増えてきました。しかし、海外に暮らす人々の文化や、自分たちが暮らす日本の文化についてさえ、まだまだ知らないことが多いのではないのでしょうか。学習支援企画「世界の文化を知ろう」を通じて、国内外のさまざまな文化や魅力にふれてみませんか？

● 講座
各国の文化を知ろう！

海外で過ごした経験のある先生に、各国と日本の文化（料理や習慣、気候、宗教等）の違いや、海外生活における体験談などをお話いただけます。

場所：多目的スペース
風のモント
時間：各回12：15～12：45
（日程は下記のとおり）
飲食可。各自ご持参ください
参加自由、途中退室も自由です

①「東アジアの文化を比較して」
12月3日(木)
講師：高等教育推進センター
ウヴェ・リヒタ教授

②「ルーマニア文化紹介」
12月22日(火)
講師：高等教育推進センター
ルプンチャ・コルネリア准教授

● ワークショップ
和綴じで雑記帳を作ろう！

日本に古くからある和綴じの技術を用いて雑記帳をつくります。日本文化や図書資料について、より興味を深めるきっかけになるかもしれません。

場所：グループ学習室4
日時：12月16日（水）
14：40～17：50

定員：20名
参加費：無料
参加申込：申込書(図書館および図書館HP等で入手できます)にご記入の上、図書館カウンターへご提出ください

作成した雑記帳はお持ち帰りいただけます。

● 企画展示
本を読んで各国の文化に触れよう！

図書館内にて、各国の様々な文化を紹介する図書を展示します。

例えば・・・

「世界ぐるっと朝食紀行」
西川治文・写真
新潮社 2007年



旅の醍醐味は、朝食にあり。現地の人と同じ朝ごはんを食べることは、その国をよく知るための近道なのだ。(中略)豊富な写真と飾らない文章で綴られた世界各国の朝食の記録。(文庫版紹介文より)

その他多数展示いたします。
ぜひご利用ください！
期間：12月上旬～12月下旬

4. Report ライブラリー・アテンダント活動報告

こんにちは！総合政策学部1年の佐藤です。11月10日～12日にパシフィコ横浜にて開催された「第17回図書館総合展」の1日目に参加してきました。その様子をお伝えします。今回のLAのポスターのテーマは、「Odense! IPUメディアセンター ～もっと好きになる図書館～」。ポスターセッションでは、これまで以上に「学生主体」となり「学生目線」を目指した私たちの活動を他大学や一般の方に紹介しました。ブースに足を運んでくれた方からは、活動や設備についての質問も多く受けました。ですが、かしこまった雰囲気はなく、どの方もとてもフレンドリーに声をかけてくださったのが印象的でした。まさにここは交流の場。自分から発信するだけでなく、多くの方との対話を通して、得られた「気づき」があれば今後に生かす。それこそが魅力的な図書館づくりにつながるのではないかと思います。



我が大学図書館 & LAの魅力アピール！

LAが出展したポスター「Odense! IPUメディアセンター～もっと好きになる図書館～」は、風のモントで展示中です！



参加したフォーラム、「簡単にできる！ムゼン綴じのメモ帳作り」のようす。グループごとに、会話を楽しみながらの作業。

LAのおすすめ

こんにちは、盛岡短期大学部1年の中野です。今回は図書館の2階の利用方法を紹介します。

普段は2階へ降りる階段は立ち入り禁止になっているので2階には行けないと思っている方もいるかもしれませんが、学内の方であれば利用可能です。お求めの資料が2階にある場合には、カウンターの方に2階に行きたいと伝えていただければ学生証と交換にカードキーをお貸しします。その際、荷物はカウンターに預けていただきますね。

2階にもたくさんの資料があるので、ぜひご活用ください！



◀ 2階電動書庫
盛岡短期大学時代の蔵書や、他大学の紀要などがあります

▶ 2階開架閲覧室
雑誌のバックナンバーや、洋書などがあります



図書館だより
12・1月号（第57号）
（平成27年12月1日発行）

編集・発行
岩手県立大学
教育研究支援室
図書グループ

TEL：019-694-2070
FAX：019-694-2071